

葛西臨海水族園事業計画検討会
第1回 説明資料

平成31年1月30日

目 次

1	本検討会設置の目的	…	1
2	基本構想策定までの経緯	…	2
3	葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について	…	4
4	検討会での検討の進め方	…	11

1 本検討会設置の目的

本検討会設置の目的

「葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想」の新たな水族園像の実現に求められる施設要件等を、ライフサイクルコスト、官民連携方法と合わせて、専門的見地から検討を行うこと

検討内容

- 新たな水族園像の実現に求められる展示内容、諸室、設備性能、必要規模等の施設要件について
- 施設のライフサイクルコスト、事業収支等について
- 新たな水族園像の実現に相応しい事業の手法、スキーム等の官民連携方法について

※葛西臨海水族園事業計画検討会設置要綱を参照

2 基本構想策定までの経緯

○2017(平成29)年 葛西臨海水族園のあり方検討会を設置

- * 開園後30年近くが経過し、社会環境の変化や施設・設備の老朽化等が進行する中、これからも多くの方々に親しまれる都立水族館として持続的に発展するためのあり方について、専門的見地から検討するために設置
- * 検討会は、2017.12～2018.7に合計5回開催

○2018(平成30)年10月10日 「葛西臨海水族園のあり方検討会報告書 ～海と人をつなぎ、海を守る水族園をめざして」公表



○2018(平成30)年11月 7日 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想素案を作成 同日から都民意見を募集（～12月6日）

- * 報告書に基づき、都としての今後の取組の方向性を明確化
- * 「基本構想」の作成に当たって、報告書で示された社会的責任の「ミッション」、目指すべき将来像の「ビジョン」は、趣旨をそのままに「新たな理念」「行動規範」として設定
- * 備えるべき機能は、報告書の提言に沿って、6つの機能として再構築
- * 新たな水族園像の実現に向け、「改築」を基本とした検討を進めていくことを記載

2 基本構想策定までの経緯

「葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想素案」に対するご意見の一例

＜ 意見総数：79通、166件 ＞

○ 新たな水族園像に関すること

- * 次世代に向けた新たな水族館像に共感
- * 自然科学の学習の場であることが公共水族館の役割
- * バリアフリーの拡充や通路を広くすべき
- * 集客効果・リピート率を上げるべき 等



参考資料2、 2, 3ページ参照

○ 実現に向けた進め方に関すること

- * 「建替え」「改築」「改修」等の区別がつきにくい
- * 建築学的、文化的価値が高い既存施設取り壊しに反対
- * 周辺の自然環境と一体となった、エリア全体の環境デザインを維持すべき
- * 既存施設を継続利用すべき
- * 新施設の建設後も既存施設が利活用されるべき 等



参考資料2、 4, 5ページ参照

○2019(平成31)年 1月16日 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想を策定

- * 都民意見を参考に、「改築」という表現を修正
- * 既存施設についての記載を追記

3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について

1. 葛西臨海水族園の現状

(1) 立地について



- 埋立地に立地する葛西臨海公園の公園施設（教養施設）
- 埋立後約30年を経て、自然環境が充実
鳥類が多く飛来
- 周辺の干潟等はラムサール条約湿地として登録



3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について

(2) 施設・特徴

開 園：1989(平成元)年10月10日

園地面積：約86,000m²

建築面積：12,417.81m²*

延床面積：15,799.74m²*

構造等：鉄骨鉄筋コンクリート造
地上3階建（本館）

設 計：谷口建築設計研究所

運 営：(公財) 東京動物園協会（指定管理者）

理 念：「海と人間の交流の場」

特 徴：クロマグロの群泳や七つの海の
生き物等を展示

総水量：約4,600 t（展示、予備水槽含）

展示生物数：約600種、約43,000点

飼育生物数：約940種、約85,000点

(3) これまでの実績

- 21世紀に向けた新しい展示開発の場とし、アクリルガラスの現場接着を採用、成功
- マグロ、深海魚、海藻の飼育困難とされた海の生き物の展示に挑戦、成功
- 繁殖や希少種保全に取り組み、繁殖賞は国内水族館最多の52回受賞
- 学校教育との連携や、第4回世界水族館会議の開催等を実施 等

* 2017(平成29)年 9月時点

3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について

2. 社会背景

(1) 目標・計画

- 「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGs（持続可能な開発目標）
- 「自然と共生する」世界に向けた、生物多様性戦略計画
- 子どもや若者に対する海洋に関する教育の推進等を主要政策とする、海洋基本計画等
- 種の保存、環境教育をより重視する傾向にある、世界動物園水族館協会の戦略

(2) 変化する水族館

- 役割が拡大（社会教育施設、教養施設に加え、希少種の保護繁殖を担う施設）
- 水族館の運営形態の多様化
- 観光資源及びユニークベニユー等としての活用

(3) 水族館に求められること

- 持続可能な社会の実現への貢献
- 海と人とをつなぐ架け橋
- グローバルな視点での統合的な保全活動
- ソフト・ハード両面でのアクセシビリティの確保
- 生物多様性を守る取組
- 海の文化・歴史を伝える
- 立地・施設のポテンシャルの発揮

3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について

3. 葛西臨海水族園の課題

(1) 機能から見た課題

- これまでの希少種保全、環境教育等の取組を発展させるとともに、持続可能性を重視した収集・調達等の新たな取組に挑戦することが重要
- 新たな取組を行う上で重要となる機能を再構築する必要

(2) 施設の課題

- 1) 不足する施設 : 無料休憩所、レクチャールーム等の来園者ニーズに応える施設の充実
- 2) 施設・設備の老朽化 : 配管等の交換が困難、アクリルガラスの劣化の進行
- 3) アクセシビリティの確保が不十分 : 誰もが利用しやすい仕様やデザインへの対応が困難
- 4) 展示の課題 : 気づき・感動等を生む水槽形状や展示手法の開発等が必要
- 5) 消費エネルギーに関する課題 : 消費エネルギーが大きく、様々なCO₂削減策が必要

(3) 管理運営の課題

- 1) 来園者を引きつける魅力 : 来園者数の伸び悩み、来園者を引き付ける広報戦略の強化が必要
- 2) 経費の削減 : 電力消費を抑える取組、海水使用量を削減する技術開発の検討

3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について

4. 新たな水族園像とその実現に向けて

1 新たな水族園像

(1) 新たな理念

「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園」

〈行動規範〉

「海への興味・関心を高めることができる場を提供」

「私たちのライフスタイルの転換を促す」 「豊かな海を未来に残す一翼を担う」

「東京湾・海に関する文化・歴史を発信」 「海の未来を考え、行動する人材を育てる」

「海を感じる魅力的な時間・空間を提供」

→ 日本を代表する水族館として、水族館のトップランナーであり続けるように取り組む

(2) 機能の再構築

○ 新たな理念を達成するには、持続可能性を重視した新たな取組を行う必要

○ 4つの機能を6つの機能に再構築、全てを有機的につなげた取組へと発展

〈6つの機能〉

①調査・研究

②収集・飼育・繁殖

③展示・空間演出

④レクリエーション

⑤学習・体験

⑥環境保全への貢献

3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について

(3) 施設性能について

- 誰もが使いやすく魅力的な施設となるよう、来園者目線で検討
- 6つの機能を十分発揮させるため、必要となる性能等を検討
- メンテナンス性能の確保、環境負荷の低減等の検討

(4) 管理運営に当たって

- インバウンド誘致等の来園者増加の視点
- ICT等の媒体を適切に活用する等、情報発信の視点
- 様々な組織・団体等との連携等、連携強化の視点
- 効率的・効果的な運営等、経営の視点

2 実現に向けた進め方

- これまでの展示・空間演出を抜本的に刷新する必要
- 老朽化対応、アクセシビリティの改善等が必要
- 利用者ニーズへの対応等には増築が必要
- 生き物の受入手配等は非常に困難



水族園地内に、
既存施設とは別に建築する
建物に水族園機能を移す
ことを基本とした検討を進める

- 既存施設は、水族園機能を移設後、施設状態を調査の上、そのあり方を検討

3 葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想について



既存施設とは別の建物を
建築することを検討する
広場等の位置

3 検討の進め方

- 具体的な規模、手法等は、ライフサイクルコスト及び官民連携方法と合わせ検討

4 検討会での検討の進め方

<都の目標>

「2019年度 葛西臨海水族園の更新に向けた事業計画の策定」

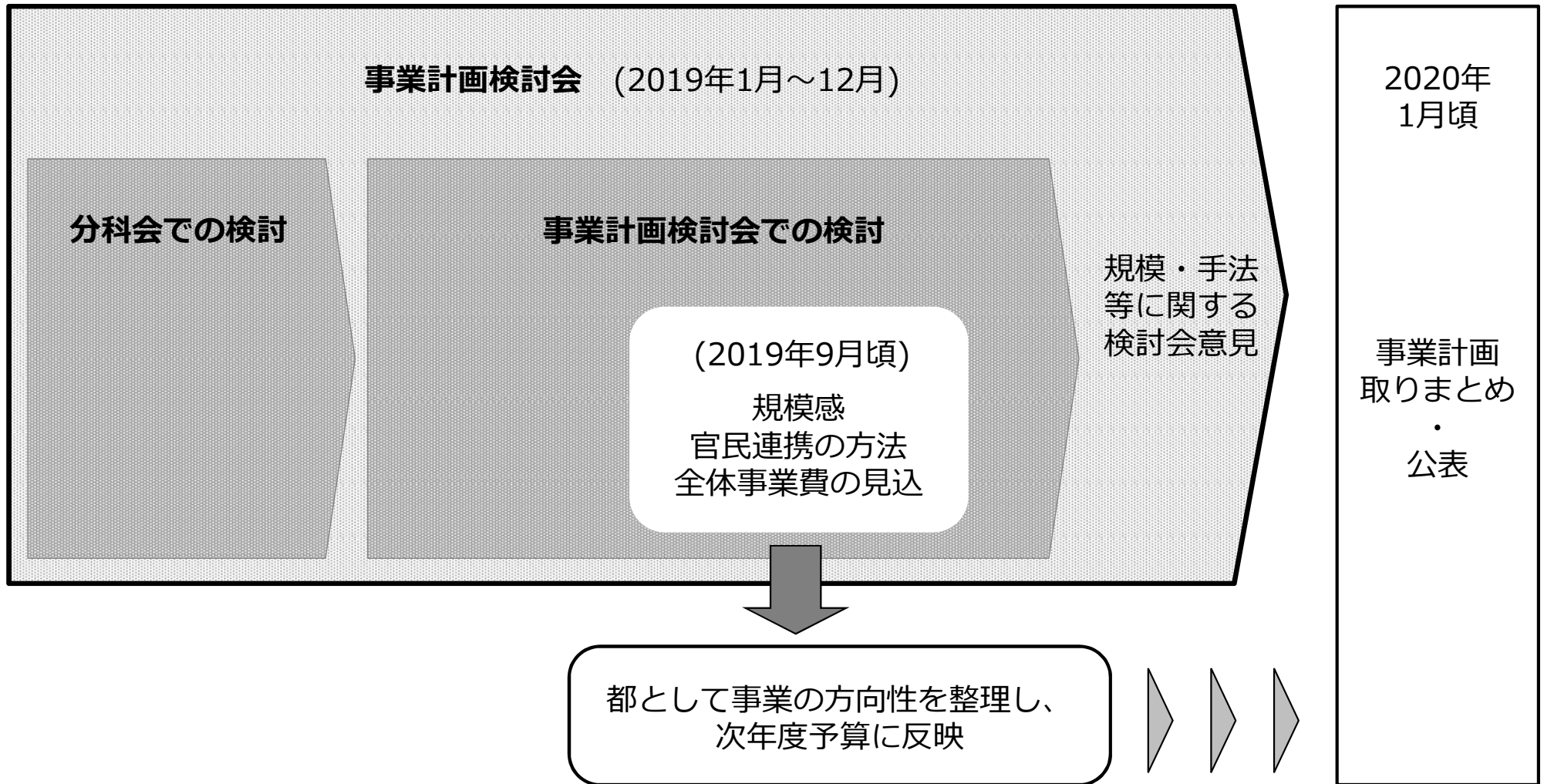
- 本検討会で、新たな水族園の規模、手法、コスト等について専門的見地から検討いただき、その検討内容・ご意見を基に、都において事業に関する基本的な事項（＝事業計画）を取りまとめ・公表

（事業計画とは）

- ・ 施設の規模感
- ・ 官民連携の方法
- ・ 全体事業費の見込
- ・ 年次計画

4 検討会での検討の進め方

<フロー>



4 検討会での検討の進め方

<検討内容>

分科会を設置し、次の内容を集中的に検討

- * 規模感・コスト等を見極める上で必要となる、
展示内容、必要諸室、設備性能等の施設要件の素案作成
- * 整備コストの算定方法等に関する検討



分科会でまとめた素案を基に、検討会で検討

- * 展示内容、諸室、設備性能、必要規模等の施設要件に関すること
- * ライフサイクルコスト、事業収支等に関すること
- * 事業の手法、スキーム等の官民連携方法に関すること

規模・手法等に関する検討会意見のまとめ

4 検討会での検討の進め方

<分科会メンバー>

- 次の検討会委員と管理運営者（葛西臨海水族園職員等）で構成

メンバー	専門分野等
佐藤 哲 委員	水族館 生物・生態
西 源二郎 委員	
鳩貝 太郎 委員	
安田 幸一 委員	建築
柳澤 要 委員	
細川 卓巳 委員	行政
管理運営者4名程度	現在の飼育展示等の担当職員 開園当時に在籍していた飼育展示等の担当職員

4 検討会での検討の進め方

<検討会スケジュール（予定）>

回数	日程	検討会の内容（案）
第1回	1月30日	検討会の目的、今後の検討の進め方 等
		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">分科会での検討期間</div> * 展示内容、必要諸室、設備性能等の施設要件 * 整備コストの算定方法等
第2回	5～6月頃	分科会の素案を元に、規模、手法等の検討①
第3回	7～8月頃	分科会の素案を元に、規模、手法等の検討②
第4回	9月頃	分科会の素案を元に、規模、手法等の検討③
第5回	12月頃	規模・手法等に関する最終確認、意見のまとめ